



(鴻巣)

騎西城は埼玉県北東部の加須低地に位置し、利根川支流の氾濫による後背湿地を天然の要害とする平城である。築城の年次は不詳であるが、康正元年（一四五五）に上杉勢が守る城を古河公方足利成氏が攻略したのを初見とし、永禄六年（一五六三）には小田助三郎の守る城が上杉謙信に攻め落とされて

埼玉・騎西城跡

- 1 所在地 埼玉県北埼玉郡騎西町大字根古屋
- 2 調査期間 一 一九九一（平三）三月～一九九二年三月
二 一九九四年二月～一九九五年二月
- 3 発掘機関 騎西町教育委員会
- 4 調査担当者 一 島村範久、二 坂本征男
- 5 遺跡の種類 城跡
- 6 遺跡の年代 旧石器時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

いる。その後寛永九年（一六三三）廃城となった。騎西城跡の本格的な調査は、区画整理事業に先立ち一九八三年から始まり、その後現在まで開発に伴う断続的な調査が実施されている。遺構・遺物は主に戦国期から江戸初期のもので、文献で確認される城の存続年代とほぼ一致する。

一 KB一九九区調査

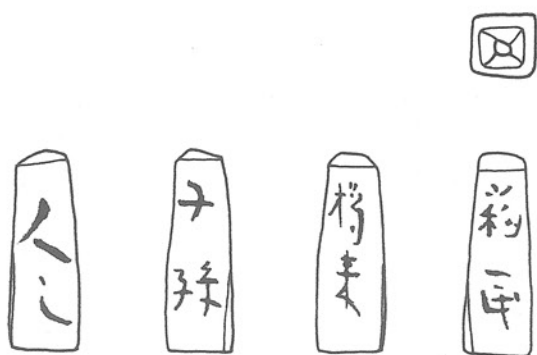
KB一九九区は六つの曲輪で構成された城郭の中程、四の丸相当部分と五の丸相当部分の間の堀にあたる障子堀である。曲輪際の堀で、北端の一号堀（幅二・八m深さ一・五m）から朱色及び黒色に彩色された位牌の台や木槌・漆碗・織部黒の沓茶碗などとともに、将棋の駒が一点出土した。連続する六号堀（幅二・三m深さ一・一m）からは羽子板・雑録や大量の漆碗・唐津の皿などとともに、呪符が一点出土した。いずれも廃城頃の一七世紀初頭に廃棄されたものと思われる。

二 第一一次調査

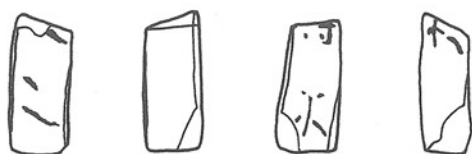
調査区は、大手門近くの外堀に位置するが、外堀掘削以前のものと思われる一号井戸（径〇・七m深さ一m。素掘り）から蘇民将來符が二点出土した。伴出遺物は乏しいが、『武州騎西之絵図』（岩瀬正直氏蔵。一七世紀初め）に見える外堀掘削以前の、一六世紀から一七世紀初頭のものと思われる。

8 木簡の釈文・内容

一 KB一九九区



二 (1)



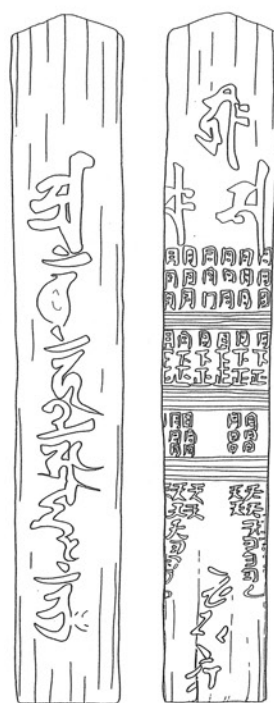
二 (2)



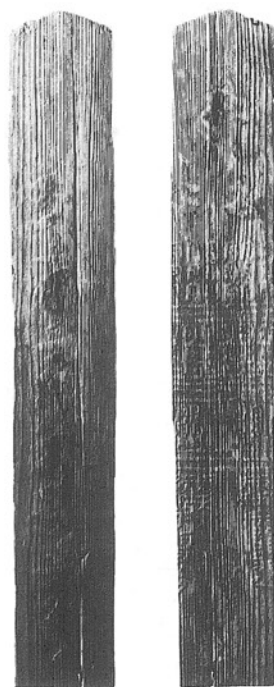
二 (1)



二 (2)



一 (1)



一 (1)

六号堀

(1) 「^(サ)キリク^(サ)」

(符籙) 

・ 「^(ア)バン^(サク)ウイン^(カンマン)ボロン^(ボロン)」

305×(45)×6 081

一号堀

(2) 「金将」

37×27×7 061

(1) は両側を欠損する。頭部は三角に作り出し、下端は平らに切断している。墨はほぼ消失し凹凸により判読した。上部に阿弥陀三尊の種子を配し、その下に符籙(月、下、正、天など)を書く。符籙の下には、急々如律令などの呪句が墨書されていたと思われる。

(2) は完形品。頭部は三角でやや薄く下辺は長く厚い五角形で、現在の駒と同様の形態である。墨は消失し凹凸により判読した。裏には墨を確認できない。

二 第一一次調査区

(1) ・ 「蘇民」

・ 「将来」(左側面)

・ 「子孫」(裏面)

・ 「人也」(右側面)

27×10×9 061

(2) ・ 

・ 「^(サ)将来カ^(サ)」(左側面)

・  (裏面)

・  (右側面)

(19)×8×8 061

(1) は完形品で四角柱、頭部は緩い四角錐とし頂部より径1mmの孔が縦に穿たれている。下部にケビキのような横線がめぐる。

(2) は四角柱、上半部を欠失し、径1mmの孔が縦に穿たれている。墨書は一部残るが不明瞭である。

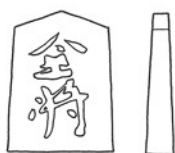
なお、釈読にあたっては大屋道則氏のご協力を得て赤外線テレビカメラ装置を使用し、梵字については千手寺の木下密運氏のご教示を得た。また、騎西城跡及び騎西城武家屋敷跡の資料については、島村範久氏・坂本征男氏のご教示を得た。実測図は「騎西町史」掲載のものを修正している。

9 関係文献

騎西町教育委員会『騎西町史 考古資料編1』

(二〇〇一年)

(嶋村英之)



一 (2)